

平成27年度（2015）

業 務 報 告

埼玉県寄居林業事務所森林研究室

平成 27 年度（2015）業務報告 目次

I	事業概況	1
II	沿革・組織	2
III	試験研究の実施状況	
	1 試験研究の実施概要	4
	2 試験研究課題一覧	5
	3 試験研究課題の取組概要	6
IV	試験研究成果の伝達	
	1 研究報告等	8
	2 学会発表・著書・刊行物	9
	3 新聞記事	10
	4 成果発表会	11
	5 発明・実用新案等	12
	6 品種育成	13
V	技術指導等	
	1 技術研修員の受け入れ	14
	2 研修会等の開催	15
	3 派遣指導	16
	4 機関の公開・普及啓発	18
VI	研究員の研修等	
	1 研究員の派遣研修	19
VII	運営会議・委員会等	
	1 委員会の開催等	20
	2 研究等評価委員	20
VIII	平成 27 年度研究費	21
IX	職員の状況	22

I 事業概況

林業の発展を支え、県民ニーズに対応した安全・安心な食料の安定供給を図るため、流通・加工・販売までを見通した試験研究を総合的に実施し、県民生活や生産現場に即した実用性の高い応用技術の開発を進めるとともに、開発した技術の伝達を図った。

平成 27 年度は、新規 1 課題を含む 12 課題の試験研究を実施した。

これを、試験研究推進構想の大柱ごとにみると、「Ⅲ 低コスト・省力生産技術の開発」1 課題、「Ⅳ 環境に調和した生産技術の開発」2 課題、「Ⅴ 調査研究」9 課題に区分される。

これらの研究で得られた成果や技術情報は、学会等で公表するとともに、マスメディア等多様な方法で広報した。また、指導者や生産者、一般消費者を対象とした成果発表会や研修会、講習会を開催するとともに、ホームページを積極的に活用し迅速・広範な伝達に努めた。

県民に開かれた研究機関として、生産者、一般県民、児童・生徒等の見学・視察の受入れ、各種相談活動、体験教室の開催、研修生の受入れ、講師や審査員の派遣など、施設の公開や技術、人材の活用を図った。

研究員の資質の向上を図るため、国の研修制度等を活用した派遣研修を実施するとともに、学会やシンポジウム、専門分野の会議等に研究員を派遣した。

III 試験研究の実施状況

1 各研究分野における試験研究の実施概要

(1) 森林環境担当

森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるため、森林の適正管理及び林業経営、森林の多様性の評価・維持、森林害虫及び獣害対策に関する6課題を実施した。

ナラ枯れを防ぎ平地林を適正に維持管理するためのモニタリングや萌芽更新調査及び人工植栽試験を実施した。森林・林業への影響が問題になっているニホンジカの生息数調査や効率的に捕獲するための簡易な捕獲技術の開発等に取り組んだ。また、森林の持つ多面的機能の維持に関連して、針広混交林化や広葉樹林化のための施業を実施した林分を対象とした森林資源モニタリング調査の実施や希少野生生物（サワトラノオ）の保存を行った。

(2) 育種・森林資源担当

花粉症対策と低コスト造林を推進するため、コンテナ苗木生産技術の開発、スギ・ヒノキの遺伝的改良、採種園管理の確立、また、きのこなど特用林産物の栽培技術に関する6課題を実施した。

コンテナ苗木生産技術の開発では、県内造林地における標準コンテナ苗植栽試験及びコンテナ苗生産手法改良試験を実施した。花粉症対策ヒノキ・スギ品種の普及拡大のため技術開発では、花粉対策・施業低コスト化のための優良種苗生産システムの開発に取り組んだ。優良種苗の確保などの事業では、造林用苗木生産のための花粉症対策スギ・ヒノキ種子の供給及び種子の安定供給のための採種園の管理、花粉症対策＋高初期成長を有する苗木生産のための閉鎖系採種園の管理、花粉発生源の調査などの事業を行った。また、特用林産物ではマイタケ原木栽培における収穫期の遅延技術開発に取り組んだ。

II 沿革・組織

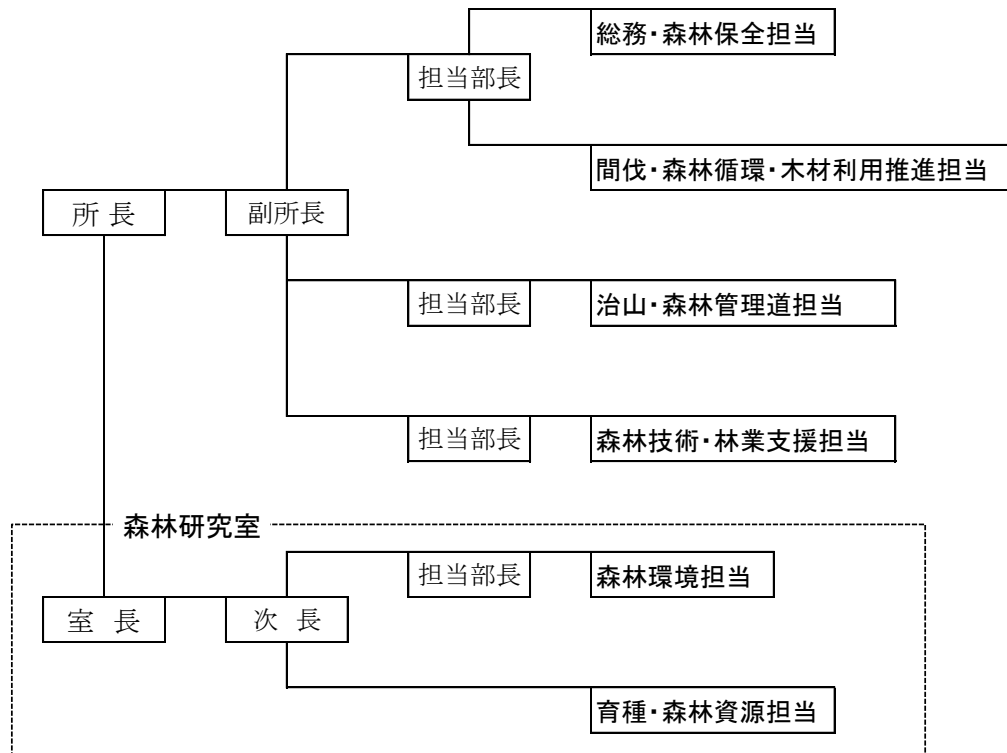
2 森林研究室の沿革

- 昭和32年 4月1日に設置条例が公布・施行され、33年2月1日に庶務係・研究係及び指導係の職員が配置され、3月29日落成式を挙（寄居町鉢形）
- 34年 4月5日に第10回植樹行事並びに国土緑化大会が挙（場内）で天皇・皇后両陛下によるお手播
- 35年 係から課に改組
- 39年 11月に皇太子殿下及び同妃殿下が御来臨
- 42年 10月に両陛下が再度行幸啓
- 46年 3月には講堂兼資料室を整備。庶務課、造林保護部及び育種部に改組、林木育種に関する試験研究と事業の一体的推進体制を整備。さらに、きのこ栽培実験室を設置
- 59年 きのこ研究の育種部を育種林産部に改称
- 平成12年 県内の農林水産試験研究機関が統合され、埼玉県農林総合研究センター森林支所が発足、庶務担当・森林機能担当及び林産・加工担当に改組
- 15年 埼玉県農林総合研究センター森林研究所に改称、きのこ研究が茶業特産研究所中山間営農担当に組み込まれ、林産・加工担当を木材加工担当に改称
- 17年 きのこ研究が森林研究所に改組され、木材加工担当を木材加工・林産担当に改称
- 18年 本所機能（熊谷市久保島）、森林研究所（寄居町）及び園芸研究所植木担当（深谷市）を江南町須賀広（現熊谷市）に移転、森林研究所と植木担当を統合し、森林・緑化研究所長（職制）、森林・緑化担当及び木材利用・林産担当を設置
- 27年 埼玉県農林総合研究センターを農業・茶業・水産及び森林・林業の4分野に分割、森林・緑化研究所は緑化（植木）分野を廃止し、寄居林業事務所（寄居町寄居）に移転。
森林研究室長（職制）、森林環境担当及び育種・森林資源担当を設置

2 土地（平成27年4月1日現在）

土地名称	面積
上の原採種園（採種園、試験圃場、管理棟、種子乾燥棟）	15,214㎡
山の神採種園（採種園、試験林）	20,851㎡
名栗試験林（立木、地上権等）	25,853㎡

3 埼玉県寄居林業事務所及び森林研究室の組織図（平成27年4月1日）



4 職員数（現員：平成27年4月1日現在）

	職員数		
	研究職	技能職	合計
森林研究室	5(1)	3	8(1)
管理・企画	2	-	2
森林環境担当	2(1)	1	3(1)
育種・森林資源担当	1	2	3

() は再任用で内数

2 試験研究課題一覧

大柱Ⅰ 安全・安心な農産物生産技術の開発

- (1) 農林産物への有害物質の汚染を防止する技術の開発
- (2) 農薬に頼らない生産技術の開発
- (3) 農林産物の安全性を高める技術の開発
- (4) 農林産物の食情報を提供する技術の開発

大柱Ⅱ 本県オリジナル品種の育成と栽培管理技術の開発

- (1) 多彩な農林産物を生産、供給するための特色ある品種の育成・選定
- (2) 県産農林産物の特徴や機能性に着目し、地産地消を推進する技術の開発

大柱Ⅲ 低コスト・省力生産技術の開発

- (1) 農林産物の省力化・快適作業化・低コスト生産技術の開発

No.	課 題 名	担 当	研究 開始年	研究 終了年
1	森林の循環利用を促進する埼玉型コンテナ苗木生産技術の確立	育種・森林資源担当	H27	H31

- (2) 農林産物を高品質・安定供給する生産技術の開発

大柱Ⅳ 環境に調和した生産技術の開発

- (1) 環境への負荷を低減し、循環型社会を実現する技術の開発
- (2) 生活環境を保全し、農林水産業の多面的機能を維持・発揮する技術の開発

No.	課 題 名	担 当	研究 開始年	研究 終了年
2	花粉対策・施業低コスト化のための優良種苗生産システムの開発	育種・森林資源担当	H24	H28
3	ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環利用システム技術の確立	森林環境担当	H24	H27

- (3) 農産物の付加価値向上や販路拡大の支援に関する研究

大柱Ⅴ 調査研究

No.	課 題 名	担 当	研究 開始年	研究 終了年
4	受託試験事業 (新規農薬・植物調節剤実用化試験)	森林環境担当	H26	H27
5	受託試験事業 (スギ花粉発生源調査事業)	育種・森林資源担当	H26	
6	令達事業 ニホンジカ捕獲事業 (ニホンジカ捕獲効率向上のための技術開発)	森林環境担当	H27	H31
7	令達事業 野生生物保護事業 (ニホンジカ生息数等調査)	森林環境担当	H21	
8	令達事業 希少野生生物調査事業 (保護管理事業計画作成等調査 サワトラノオ)	森林環境担当	H10	
9	令達事業 森林計画推進事業 (森林資源モニタリング調査)	森林環境担当	H27	H31
10	令達事業 優良種苗確保事業	育種・森林資源担当	S34	H27
11	令達事業 革新的低コスト造林事業 (採種園管理及び閉鎖系採種園の整備と管理)	育種・森林資源担当	H23	H27
12	令達事業 森林の担い手育成対策事業 (マイタケ原木栽培における収穫期の遅延実証試験)	育種・森林資源担当	H27	

3 試験研究課題の取組概要

1 森林の循環利用を促進する埼玉型コンテナ苗木生産技術の確立

県内造林地におけるコンテナ苗の植栽試験では立地条件の異なる3造林地（5調査区）において、全苗組標準法で生産されたコンテナ苗の植栽を実施した。このうち、土壌の柔らかい2調査区では唐グワによる一畝植えと、数回耕したうえで一畝植えでの植栽を実施した。

コンテナ苗生産手法の改良試験では土壌改良剤（ココピートオールド）に鹿沼土の添加量を変えた（0、10、20、40%）試験区を設けた。さらに鹿沼土添加量20%の試験区では一部のインナーポットにスリット加工を施した。各容器には平成26年に播種した実生を植え付け、1成長期の成長量を測定した。

2 花粉症対策・施業低コスト化のための優良種苗生産システムの開発

平成25年度産の人工交配種子を播種床に播種し、2成長期経過した時点での成長量を調査した。平成26年度実施の人工交配により得られた実生を育苗箱で育苗後、インナーポットに移植し、植付け当年度の成長量等を調査した。

平成27年2月から3月にかけて実施した閉鎖系採取園内での自然交配によって得られた種子について、母樹系統及びカメムシ対策の交配袋の有無ごとに発芽率調査を実施した。

スギ大苗植栽試験については造林後5年が経過した時点の成長量について調査した。

3 ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環利用システム技術の確立

ナラ枯れ危険度調査では、秩父市、飯能市、日高市、美里町及び神川町の調査地点5カ所でカシノナガキクイムシは捕獲されなかった。

根元直径が50cmを超えるコナラ・クヌギ各1本を伐倒し、幹から枝（末口5cm）までの直径と長さを連続して計測した。コナラは末口20cm以上の材積が8割近くを占め20cm未満が2割、クヌギはそれぞれ7割と3割だった。コナラ・クヌギの利用可能な直材の割合は、末口径20cm以上（用材）が1割程度に止まった。シイタケ原木として利用が期待された枝部分は曲がりが大きく、シイタケ原木としての利用は難しいことが明らかになった。

コナラ材の強度は、曲げ強度が168.7MPa、曲げヤング係数が15.7GPaだった。コナラ材は乾燥に伴って曲がりなどの変形が生じるため利用されなかったが、小片化して使用に必要な厚さが確保できるよう十分に歩増し製材することにより利用が可能となり、それを接着し大判の板材にすることで家具材としての利用を見込めることが明らかになった。

萌芽更新試験地（所沢市、飯能市、美里町、寄居町）の継続調査を実施した。

4 受託試験事業（新規農薬・植物調節剤実用化試験）

植物調節剤実用化試験

樹木用植物調節剤1剤について、供試木（マテバシイ）を対象区、通常処理区及び増量処理区（各3本）に分け、陽樹冠の枝を各15本選定して、12ヵ月後の枝長を測定したが、薬剤の明瞭な効果は認められなかった。

5 受託試験事業（スギ花粉発生源調査事業）

スギ雄花観測定点 45ヶ所各 40本の雄花着生量を 11月中旬に観測した。平成 27 年度の雄花指数（雄花着花量と比例）は例年（過去 14 年間の平均）の 103%だった。

6 令達事業 ニホンジカ捕獲事業（ニホンジカ捕獲効率向上のための技術開発）

11月上旬から林内に鉋塩を設置しニホンジカの誘引試験を実施した。翌日からニホンジカが誘引され、効果のあることを確認した。

秩父市定峰地内の秩父市有林内にニホンジカを生体捕獲するための柵を設置した。柵に対する警戒心を解くため、複数の開口部を設け、柵内外に鉋塩やヘイキューブを設置した。

より簡易な構造の捕獲柵を試作し、ヘイキューブ等でニホンジカを誘引し、柵に対する行動をセンサーカメラで記録・観察した。

7 令達事業 野生生物保護事業（ニホンジカ生息数等調査）

大里郡寄居町大字金尾地内において区画法（目撃法）によりニホンジカの生息数などを調査した。予備調査時にはニホンジカ（♀）一頭を確認したが、本調査時には確認できなかった。足跡や剥皮害などの痕跡は多数確認した。

8 令達事業 希少野生生物調査事業（保護管理事業計画作成等調査 サワトラノオ）

希少植物サワトラノオ保護のため、株の管理を実施した。

9 令達事業 森林計画推進事業（森林資源モニタリング調査）

日高市高麗本郷ほか 2か所で、針広混交林誘導検証調査を実施した。

10 令達事業 優良種苗確保事業

花粉の少ないスギ・ヒノキの優良種子を採取し、7.0kg を苗木生産者の団体に譲与した。また、花粉の少ないスギ・ヒノキの採種園やスギミニチュア採種園の管理を行った。

11 令達事業 革新的低コスト造林事業（採種園管理及び閉鎖系採種園の整備と管理）

角型コンテナに定植済みの採種母樹 10 品種（県内産少花粉 3 品種と県外産少花粉＋高初期成長 7 品種）にジベレリンを散布し、着果促進処理を行い、着果状況を調査するとともに、外部の花粉との交配を防ぐため 1 月末にハウス内に移設し閉鎖系内で自然交配させた。

12 令達事業 森林の担い手育成対策事業（マイタケ原木栽培における収穫期の遅延実証試験）

8 月下旬または 9 月上旬に枠で囲んだ櫓木の埋設地を、ブルーシートまたは半透明ビニールシートで被覆し、未被覆との子実体収穫時期の比較調査をおこなった。また、土壌水分や地上部の温・湿度など基本条件を調査した。なお、試験地の設定・調査はマイタケ原木生産者及びグループと共同で実施した。

IV 試験研究成果の伝達

1 研究報告等

(1) 埼玉県農林総合研究センター研究報告第15号（平成27年度発行）

《抄 録》

標 題	ケヤキ高齢・希少木の秋に水挿した不定枝からの萌芽枝を外植体とした繰り返し培養によるクローン増殖
執 筆 者	原口雅人

2 学会発表・著書・刊行物

(1) 学会口頭発表

発表者	原口雅人
演題	低汚染地域でのヒノキ原木ナメコの放射性セシウムの汚染実態と低減化
学会名	関東森林学会
発表年月	平成27年10月19日

(2) 情報誌等

執筆者	森林研究室
標題	ブック情報「組織の再編」
掲載誌名	全国林業試験研究機関協議会 会誌第49号
発行年月	平成27年11月

執筆者	森林研究室
標題	研究情報「ニホンジカ捕獲効率の向上に向けた取り組み」
掲載誌名	関・中林試連情報第40号
発行年月	平成28年3月

執筆者	森林研究室
標題	機関情報「組織の再編と20年ぶりの新規採用職員」
掲載誌名	関・中林試連情報第40号
発行年月	平成28年3月

(3) 著書・刊行物

著者	原口雅人
書名	公立林業試験研究機関研究成果選集 No.13
表題	秋期のケヤキ高齢木のクローン増殖と形質の比較
発行所	(独)森林総合研究所
発行年	平成28年3月

3 新聞記事

1月

掲載年月日	平成 28 年 1 月 27 日
新聞名	日本経済新聞
見出し	花粉飛散量「例年並み」／県予測、昨年よりは多く

掲載年月日	平成 28 年 1 月 27 日
新聞名	産経新聞
見出し	スギ花粉飛散量予測

2月

掲載年月日	平成 28 年 2 月 2 日
新聞名	読売新聞
見出し	スギ花粉「例年並み」／ただし昨年の春の倍 県「早めの対策を」

掲載年月日	平成 27 年 2 月 2 日
新聞名	毎日新聞
見出し	自慢のシイタケ 43 点／「道の駅あしがくぼ」で品評会

5 成果発表会

(1) 埼玉農林業を支える試験研究成果発表会

期 日 平成 28 年 1 月 29 日

場 所 埼玉県農業大学校

参加者 221 名 (一般、農林水産業団体、市町村、県、農業大学校生)

森林研究室発表 「林地におけるニホンジカの効率的捕獲に向けて」 森田担当部長

森林研究室展示 シカの角、花粉の少ないスギ

(2) 森林研究室成果発表会

期 日	開催場所	発表会の具体的な内容	参集範囲	参加者数
平成 28 年 2 月 10 日	寄居町中央 公民館	1 研究成果の口頭発表 ・ニホンジカの効率的な捕獲に向けて ・スギコンテナ苗木の得失について ・発生期に雨の少ない埼玉でのヒノキ原木ナメコ栽培 ・指標植物からスギの植栽適地を見極める 2 展示・配布 ニホンジカ関連、コンテナ苗関連、原木きのこマニュアル、スギ植栽適地判定マニュアル 3 外部講師による講演 ・林木の成長過程を踏まえた森林施業	一般、大学、 林業団体、 市町村、県	91

(3) その他 (公開講座・シンポジウム・情報交換会など)

期 日	開催場所	発表会の具体的な内容	参集範囲	参加者数
平成 27 年 9 月 10・11 日	東京都府中市・青 梅市・立川市	関東・中部林業試験研究機関連絡協議 会優良種苗研究会	都県・森林総研の 研究員	26
平成 27 年 11 月 30 日	埼玉県総合教育セ ンター江南支所	共同実験実習座談会 植物バイテク・きのこ研究の取り組み	高校生徒・教員	40
平成 27 年 12 月 8 日	日本気象協会	第 29 回関東信越花粉症研究会	都・県・市の保 健・林業研究員、 大学、日本気象協 会	13
平成 27 年 12 月 12 日	東松山市高坂丘陵 市民活動センター	全国都市景観 100 選の街を守る会公 開講座 ・雑木林の管理について ・管理の進め方	会員・市民	30

5 発明・実用新案等

(1) 特許

①特許権等の名称

コムラサキシメジに属する新菌株と人工栽培法

発 明 者
出 願 年 月 日
番 号
備 考

原口 雅人
平成17年11月22日
特願2005-365476

6 品種育成

(1) 種苗法に基づく登録品種

種 類	品 種 名 称	登録年月日	登録番号	備 考
はたけしめじ	彩の子(さいのこ)	平成17年 3月 14日	第12958号	

V 技術指導等**1 技術研修員の受け入れ****(1) 国内からの技術研修員の受け入れ**

受入制度	直接依頼
受入期間	平成 28 年 2 月 18 日
研修員の所属・人数	静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター、静岡県交通基盤部森林整備課 各 1 名

2 研修会等の開催

研修会等の名称	コンテナ苗生産施設及び植栽試験地視察研修
主催者（担当）	森林研究室
開催年月日	平成27年6月17日
場所（参加者数）	群馬県安中市（28名、森林組合・山林種苗組合・県機関・森林総研）
研修会等の名称	スギのつぎ木増殖技術の研修
主催者（担当）	森林研究室
開催年月日	平成28年2月15日
場所（参加者数）	寄居林業事務所、寄居採種園（14名、森林組合、種苗生産組合、県機関）

3 派遣指導

(1) 県内への派遣指導

派遣先	桶川市指定文化財第1号地
指導内容	椎檜（シイガシ）の保存
派遣期間	平成27年6月19日
研修等の主催者	桶川市教育委員会
指導対象人数	4名
派遣先	シイタケほだ場
指導内容	平成27年度シイタケほだ場共進会
派遣期間	平成27年10月26・27日
研修等の主催者	農林部森づくり課
指導対象人数	11名
派遣先	所沢市役所
指導内容	平成27年度第1回所沢市みどりの審議会
派遣期間	平成27年7月17日
研修等の主催者	所沢市
指導対象人数	17名
派遣先	ときがわ町原木マイタケ種菌接種・培養施設
指導内容	原木マイタケ楢化診断
派遣期間	平成26年7月9日
研修等の主催者	ときがわ町
指導対象人数	1名
派遣先	所沢市役所、三ヶ島里山保全地域指定計画地・小手指公民館
指導内容	平成27年度第2回所沢市みどりの審議会
派遣期間	平成27年10月14日
研修等の主催者	所沢市
指導対象人数	16名
派遣先	所沢市役所
指導内容	平成27年度第3回所沢市みどりの審議会
派遣期間	平成27年12月18日
研修等の主催者	所沢市
指導対象人数	19名
派遣先	道の駅果樹公園あしがくぼ
指導内容	第33回埼玉県きのこ共進会
派遣期間	平成28年1月29日
研修等の主催者	埼玉県きのこ振興会
指導対象人数	43名

(2) 県外への派遣指導

派遣先	日本森林技術協会
指導内容	平成 27 年度低密度植栽技術の導入に向けた調査委託事業第 3 回検討会委員会
派遣期間	平成 28 年 2 月 23 日
研修等の主催者	日本森林技術協会
指導対象人数	17 名

4 機関の公開・普及啓発

(1) イベント等への出展

行 事	出 展 内 容
2015 彩の国食と農林業の祭典「ドリームフェスタ」 (平成 27 年 11 月 14 日～15 日・於：SKIP シティ 主催：2015 彩の国食と農林業の祭典実行委員)	試験研究成果のパネル展示(スギ花粉 飛散予測、ニホンジカ)、 展示(花粉の少ないスギ、通常のスギ)

VI 研究員の研修等

1 研究員の派遣研修

研修目的又は課題	研究倫理講習
派遣先	農林技術研究センター
受入制度	研究倫理講習会
派遣期間	平成27年7月3日
研究員の氏名	藤田伸一、原口雅人、森田 厚、田波健太
研修目的又は課題	イオンビーム育種による植物及び微生物の新種開発の現状
派遣先	埼玉工業大学
受入制度	埼玉工業大学産学官交流セミナー
派遣期間	平成27年8月7日
研究員の氏名	原口雅人、田波健太
研修目的又は課題	刈払機作従事者安全衛生教育講習会
派遣先	埼玉県農林公園
受入制度	刈払機作従事者安全衛生教育講習会
派遣期間	平成27年9月25日
研究員の氏名	田波健太
研修目的又は課題	チェーンソー作業従事者特別教育講習
派遣先	埼玉県農林公園
受入制度	チェーンソー作業従事者特別教育講習会
派遣期間	平成27年10月15日、16日
研究員の氏名	田波健太
研修目的又は課題	パワーポイントプレゼン研修
派遣先	農業技術研究センター
受入制度	農業技術研究センター職員研修
派遣期間	平成28年2月26日
研究員の氏名	田波健太

VII 運営会議・委員会等

1 委員会の開催等

(2) 会議の開催等

ア 管理・運営に関する会議

会議の種類	会議開催日	備考
運営会議	平成27年4月17日 平成27年8月26日	

イ 管理・運営に関する会議

会議の種類	会議開催日	備考
研究推進評価会議	平成27年9月18日	事前評価

2 研究等評会委員

研究等評価委員会 3名

分野	氏名	役職等
学識経験者	後藤 晋	東京大学大学院農学生命科学研究科 附属演習林教育研究センター 准教授
生産者	滝田 早苗	埼玉県産種苗協同組合 理事長
消費者	設楽 幸裕	こだま森林組合 代表理事組合長

VIII 平成 27 年度研究費（予算）

試験研究課題名	区分	金額（千円）
ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環利用システム技術の確立	県単	856
ニホンジカ捕獲効率向上のための技術開発	令達	4,004
森林資源モニタリング調査	令達	130
ニホンジカ生息数等調査	令達	76
希少野生生物調査（サワトラノオ）	令達	7
生育調節剤試験	受託	26
森林の循環利用を促進する埼玉型コンテナ苗木生産技術の確立	県単	804
花粉対策・施業低コスト化のための優良種苗生産システムの開発	県単	709
革新的低コスト造林事業（閉鎖系採種園）	令達	798
森林の担い手育成対策事業	令達	284
マイタケ原木栽培における収穫期の遅延実証試験他	令達	441
優良種苗確保事業	令達	441
スギ花粉発生源地域推定事業	受託	250
計		8,385

IX 職員の状況（平成27年4月1日現在）

埼玉県寄居林業事務所森林研究室

森林研究室長 (技) 藤 田 伸 一

次 長 (技) 原 口 雅 人

○森林環境担当

担 当 部 長 (技) 森 田 厚

上 席 主 任 (技) 福 島 和 孝

専 門 員 (技) 萩 原 謙

○育種・森林資源担当

主 任 (技) 島 田 孝 行

主 任 (技) 小 菅 匡

技 師 (技) 田 波 健 太

埼玉県寄居林業事務所森林研究室業務報告 2015

2016年12月発行

発行 埼玉県寄居林業事務所森林研究室

〒369-1203 埼玉県大里郡寄居町寄居 1587-1